

ジャガイモ・サトイモ・サツマイモ

JAグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田 孝志

【はじめに】

2月に入り気温の上昇とともに、作物は生育の勢いを増してきます。ジャガイモは比較的寒さに強い作物で、2月下旬には定植することができます。今回は、直売所などで人気のあるジャガイモ・サトイモ・サツマイモの栽培について簡単に紹介したいと思います。

【イモの特徴】

この3種類のイモは病害虫に強く、初心者でも栽培することができます。しかし、品質の良いイモを生産するためには、それぞれの特性を理解することが大切です。

ジャガイモは暑い夏を避けて、春と秋に栽培することができるため、2度イモとも呼ばれています。気温の低い北海道で全国の70%以上を生産しています。

サトイモは高温性で、土壤の乾燥を嫌い、過湿土壤でも良く生育します。サツマイモも高温性ですが、土壤の乾燥に強い作物です。サトイモは宮崎県、サツマイモは鹿児島県が全国一の生産量となっています。




【ジャガイモの栽培】

2月	3月	4月	5月	6月
	▲	▲		■
	定植	芽かき・追肥・土寄せ		収穫

品種は男爵、メイクイン、キタアカリなどがあります。メイクインはやや晩生でイモは細長い形をしており、調理したときに煮崩れしにくいイモです。キタアカリはやや甘味のある種類です。

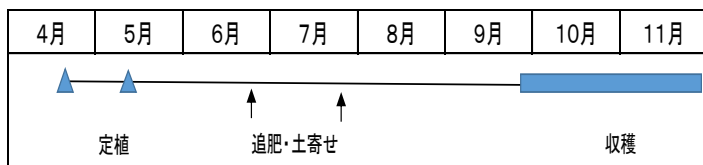
2月下旬から3月中旬に定植します。基肥を施用した後、幅100cm程度の畝を立て、株間30cmの1条植えにします。卵大の種イモの場合は2つに切り分けて植えます。種イモから上部に根が出てイモができるので、やや深めに植えるようにします。

新芽が15cm程度に生長したところ、1~2本に間引きをします。その後、追肥と土寄せを行い、イモが土から出ないようにします。病気は少ないですが、ニジュウヤホシテントウに葉を食害されることがあるので注意します。5月下旬にイモが大きくなると茎葉が倒れてくるので、丁寧に収穫します。

イモの種類	科名・原産地	イモのできる部位	生育適温	土壤水分
ジャガイモ 	ナス科 南米アンデス原産	茎(地下茎)	15~20℃	過湿に弱い
サトイモ 	サトイモ科 東南アジア原産	茎(塊茎)	25~30℃	過湿に強い (乾燥に弱い)
サツマイモ 	ヒルガオ科 中央アメリカ原産	根	25~35℃	過湿に弱い (乾燥を好む)

※栽培のポイント・「連作を避ける」、「マルチ栽培」で雑草を抑制

【サトイモの栽培】



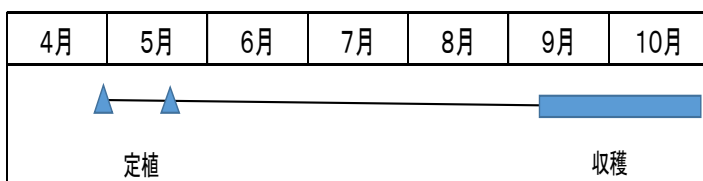
品種は石川早生、セレベス、八ツ頭などがあります。石川早生は子イモがたくさん収穫でき、粘りのある食感です。セレベスは親イモが大きくなり、子イモの収量はあまり多くありません。八ツ頭は茎もズイキとして食用になります。

元肥を施用した後、幅 120cm 程度に畝を立て、株間 40cm の 1 条植えにします。元肥として 10 a 当たり窒素成分 12kg 程度施用し、イモのなかでは肥料をたくさん必要とします。

高温性のため、地温が低いと定植から発芽まで一か月以上かかることもあります。そのため、あらかじめ土中に種イモをまとめて植え、ビニール被覆で地温を上昇させ、発芽したイモを定植する方法もあります。芽出した種イモの活用により収穫時期を少し早くすることができます。

生育期間が長いので 2 回程度追肥を行い、施肥後に土寄せをします。病害虫の発生はあまり多くありませんが、9 月頃にハスモンヨトウが発生することがあるので注意します。9 月になってから試し掘りを行い、子イモが大きくなっていたら順次収穫します。

【サツマイモの栽培】



品種は紅はるか、安納いも、シルクスweetトなどがあります。紅はるかは甘味の強い品種です。安納いもは少しねっとりとした食感があります。

10 a 当たり窒素 3kg 程度の少量の施肥を行った後、幅 1m 程度の畝を立て、株間 30~35cm の 1 条植えとします。定植後に晴天が続くと苗がしおれやすいため、曇天日に植えると活着が良くなります。

サツマイモは、茎を垂直に植えるとイモの数が少なくなり巨大なイモができます。そのため、茎を水平に植え、適度な大きさのイモがたくさん収穫できるようにします。

秋になると葉の養分がイモに転流します。試し掘りを行って、イモの大きさを確認してから掘り上げます。収穫後はイモが腐らないように少し乾燥させた後、保存するようにします。

サツマイモは病害虫の少ない品目ですが、近年「サツマイモ基腐病」が南九州地域を中心に問題となっています。病原菌は「カビ」で、症状は株基の茎が枯れ、イモが腐敗します。苗から伝染することが多いので注意が必要です。登録農薬として、定植前の苗の浸漬にはベンレート水和剤、本田ではアミスター20フロアブル等があります。病気が発生しないように注意しましょう。



「サツマイモ基腐病」の症状